

令和3年ホヤ類調査結果速報 No. 5

令和3年11月26日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

11月17日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着個体数はホタテガイ1枚あたり11.1個体で(表1)、過去10ヶ年の平均値の1/2以下です(図3上)。
- 付着個体の成長に伴い、付着重量は増加していますが、付着個体数が少なく、サイズもやや小さいため、過去10ヶ年の平均の1/3以下です(図3下)。
- 今回、調査した連では下層にヨーロッパザラボヤが多く付着したホタテガイが見られました(図1)。
- 今年は全体的には付着量が少ない年と考えられますが、深度や耳吊り時期により、付着量にはバラツキがあると考えられます。必要に応じて貝洗い等の対応を行って下さい。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和3年11月17日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・夏池
TEL:0138-83-2893 FAX:0138-83-2849

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和3年度ザラボヤ被害防止ネットワーク構築委託事業で実施しています。

1：耳吊りホタテ貝付着物調査

〔調査月日：11月17日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚〕

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました（図1、表1）。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数はホタテガイ1枚あたり11.1個体、平均サイズは30.6mmでした。前回の調査（11.1個体、20.5mm）と個体数はほとんど変わりませんが、サイズは約10mm大きくなっています（図2、図3上）。平均付着重量はホタテガイ1枚あたり32.0gで、前回調査（10.2g）から大きく増加しています。なお、下層は上、中層の3倍以上の付着個体数、2倍以上の付着重量でした（表1）。今年は全体的な付着個体数が少ないため、付着重量の増加ペースは例年よりもかなり緩やかになると考えられます（図3下）。ただし、出荷時期（12～4月）にホタテガイ1枚あたりヨーロッパザラボヤが10個体残っているだけでも、ホタテガイを上回る重量となり、成長にも悪影響が出る場合があります。付着状況に応じて、貝洗い等の対応を進めてください。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：令和3年11月17日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	平均
全付着重量	142.7g	84.4g	91.6g	106.2g
ヨーロッパザラボヤ	19.4g	20.6g	55.9g	32.0g
その他	123.3g	63.8g	35.7g	74.3g
ヨーロッパザラボヤ個体数	5.0個体	7.0個体	21.2個体	11.1個体
令和2年11月(R2.11.17)の個体数	7.8個体	13.4個体	7.8個体	9.7個体
令和元年11月(R1.11.11)の個体数	45.8個体	37.0個体	33.2個体	38.7個体
平成30年11月(H30.11.24)の個体数	8.2個体	24.6個体	27.2個体	20.0個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：令和3年6～11月）

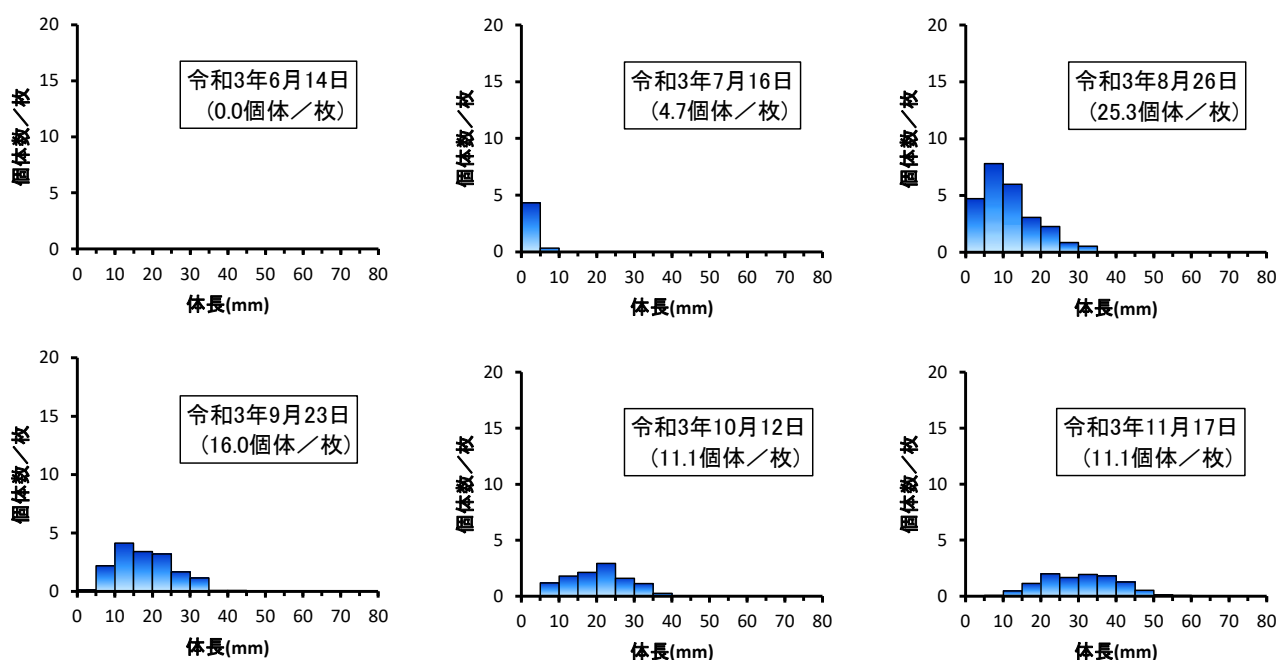
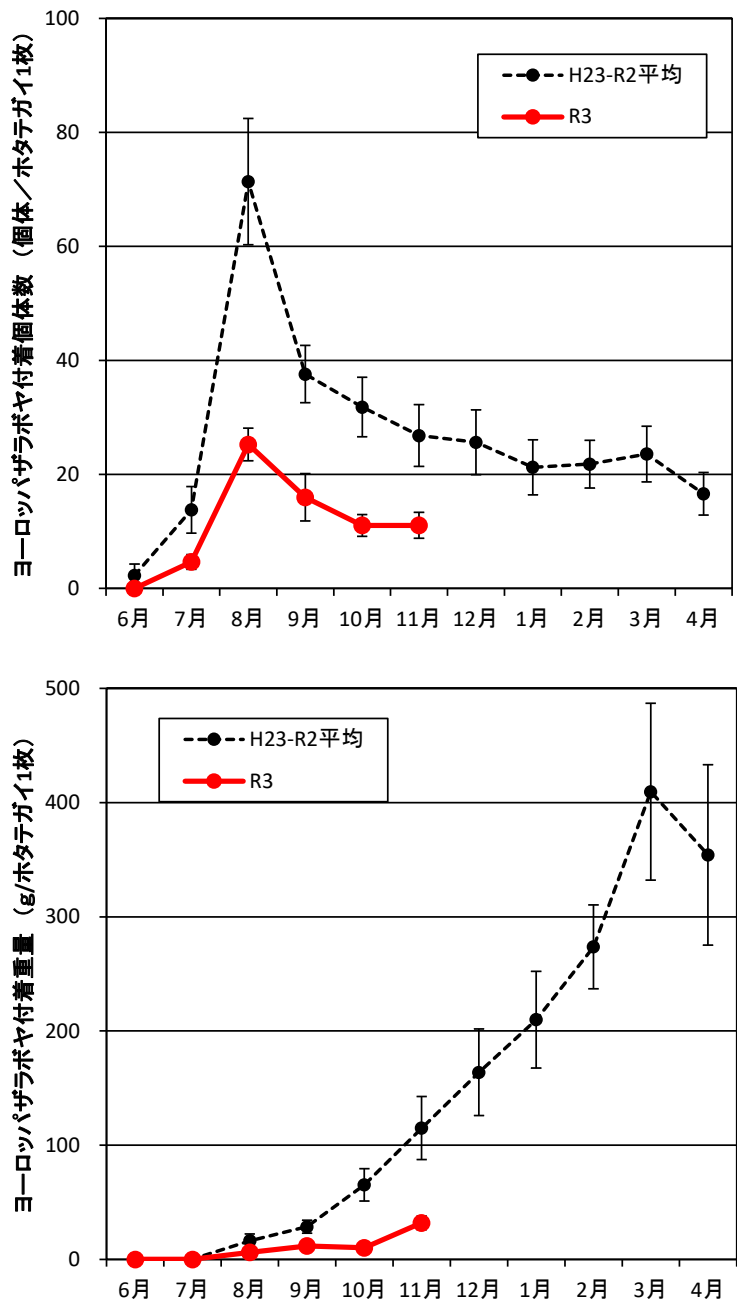


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去10ヶ年（H23～R2年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は7～8月が中心となっています。例年であれば、付着重量は10月以降、急激に増加しますが、今年は、付着個体数が少ないことから、重量の増加ペースは例年よりもかなり緩やかになると見込まれます。